

あがつま
吾妻森林管理署長が語る

署長 竹下 誠

はじめに

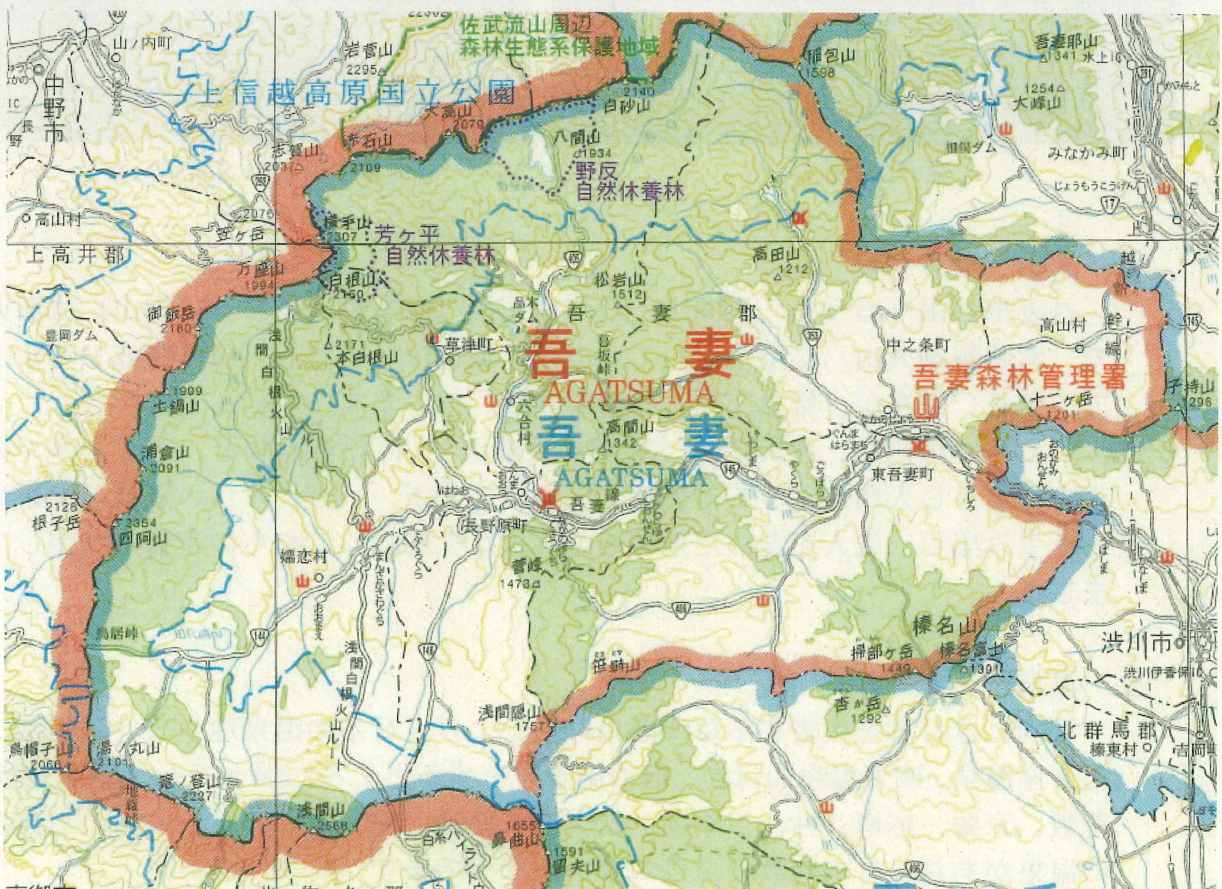
令和2年4月から吾妻森林管理署長を拝命している竹下でございます。

森林を見ると一般的に人間は「美しい」「癒やされる」といった感情を持つことが知られていますが、様々な角度から視点を変えてみることで、さらに新たな感動を得られることもあると考えています。そうしたことから、今回は当署管内の概要や見所などを国有林と繋がりのある場所を中心に、いくつかの視点からご紹介させていただきますので、よろしくお願いたします。

1 管内の概要

吾妻森林管理署は、群馬県の北西部、利根川支流の吾妻川流域に位置し、群馬県吾妻郡全域を管轄しています。吾妻郡6町村の区域面積約128千haの約8割を占める102千haの森林うち、約58千haの国有林を管理しています。

国有林には湖沼や温泉などの観光資源が多く所在するとともに、東部にはスギ、西部にはカラマツからなる人工林が分布し、国有林面積の約4割を占めています。



※ 管内図（緑色の部分が国有林です。）

2 吾妻郡の生いたち（地形・地質から）

吾妻地域の地形は、約1億年前の白亜紀から現在に至るまで、さまざまな地殻変動が繰り返されることにより形成されました。

現在の地形は、長野県との県境に日本百名山の^{あさまやま}浅間山（2,568m）、^{あずまやさん}四阿山（2,354m）、^{もとしらねさん}本白根山（2,171m）などの高山が連り、南東部には榛名山、子持山などの山々に囲まれ、中央部の東西方向に吾妻川が流れています。

これらの山々の多くは火山由来のものであり、主に古い火山による火山岩地帯と新しい火山の噴出物の堆積によって山地の地質が構成されています。

なお、署の庁舎が所在する中之条町大字伊勢町は「中之条盆地」に立地していますが、この盆地は今から約50万年前、榛名火山の噴火により吾妻川がせき止められて形成された「古中之条湖」に地層が堆積されてできたもの、と推定されています。



<春の浅間山>



<草津白根山（湯釜）>

(1) 火山

吾妻郡の山々のうち、浅間山と草津白根山（湯釜付近及び本白根山）は活火山で「常時観測火山」に指定されています。現在はいずれも「噴火警戒レベル1」で「留意」ですが、気象庁による監視が続いています（2021.10.15現在）。

こうした火山は、浅間山の「天明の大噴火」（1783年）など、過去に多くの災害をもたらした人類にとっては恐ろしいものですが、一方、珍しい景観、温泉や鉱物を生み出し、先人を含めた地域の方々はたくましくこれらの産物を利用してきました。

(2) 温泉

管内には日本を代表する草津温泉はもとより、日本の温泉地ベスト50に選ばれた万座温泉、四万温泉のほか、宿泊施設を有するところに限っても、鹿沢、尻焼、花敷、京塚、応徳、林、川原湯、松ノ湯、薬師、鳩ノ湯、沢渡、大塚、と数多くの温泉があり、日本有数の温泉エリアとなっています。

これらの温泉地の多くは国有林に囲まれ、また、泉源の多くは国有林にあります。



＜昭和23年頃の草津温泉（湯畑）＞



＜現在の草津温泉（湯畑、2018）＞

(3) 鉱石採取跡

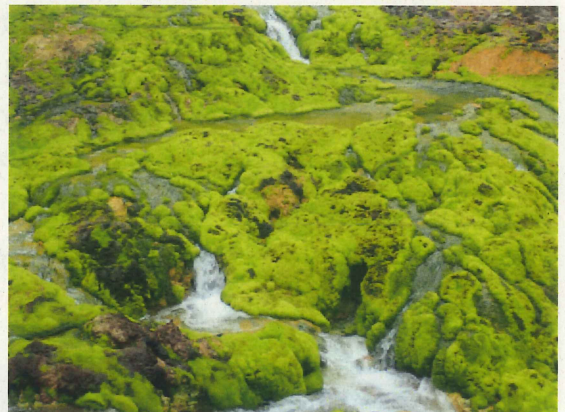
ア チャツボミゴケ公園（穴地獄）

草津温泉の北に位置する旧「群馬鉄山」の跡地で、かつて露天掘りをした窪地にチャツボミゴケが自生しています。チャツボミゴケは強酸性泉の飛沫を浴びながら生育するという珍しいゴケで、平成29（2017）年に国指定の天然記念物に指定されています。また、「バイオミネラリゼーション」と呼ばれる微生物の働きにより、鉄鉱石の生成にかかわっています。

なお、「群馬鉄山」は第2次世界大戦に伴う鉄不足の解消を目的に短期間で開山し、最盛期には2000人以上の方が従事され、国内第2位の生産量を誇る露天掘り鉱山として栄えました。鉱石の運搬に利用された遺構「旧太子駅」を訪ねると往時の様子を垣間見ることができます。



＜チャツボミゴケ公園＞



＜チャツボミゴケ＞

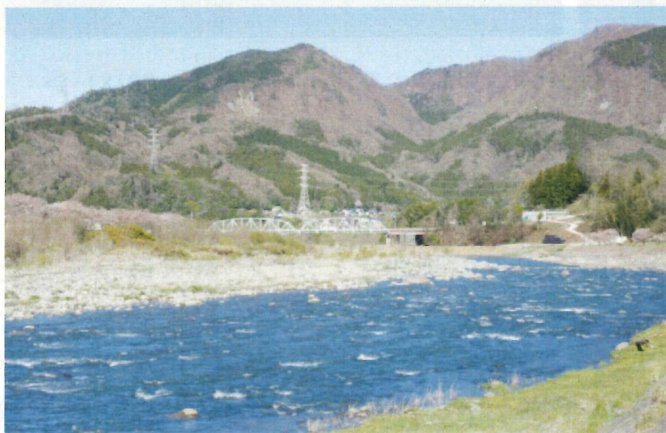
イ 硫黄鉱山跡

「群馬鉄山」のほかにも、草津白根山を中心とする活火山地帯にはかつて多くの鉱山がありました。大正の頃から主に硫黄を採掘し、学校をもつ鉱山集落だけでも白根鉱山、石津鉱山、吾妻鉱山、小串鉱山の4箇所がありましたが、昭和40年代には全て閉山となっています。遺構として整備されておらず、今は訪れることができませんが、近くを通った際には過去の暮らしに思いを馳せてみるのも一興かと思えます。

3 吾妻川（河川環境から）

利根川の支流の吾妻川は、ふところ（流域面積）が大きく、急流で河岸が断崖絶壁となっている箇所が多くあります。このため、「吾妻渓谷」などの景勝地や「水力発電」が多いのが特徴です。

一方、火山地帯を源流とし酸性度が高い支流も多く、かつては魚類が住めない「死の川」と呼ばれたこともありましたが、国土交通省による河川の「中和事業」により現在では解消されています。



<吾妻川>



<吾妻川のカワセミ>

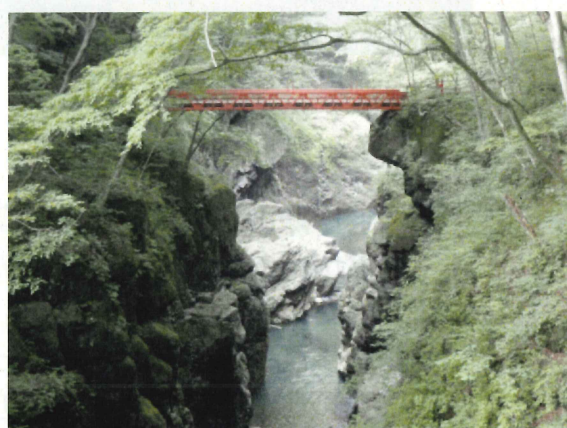
(1) ハッ場ダム

昭和22（1947）年に大水害を引き起こしたカスリーン台風を契機に、昭和27（1952）年にハッ場ダム建設計画が策定されました。首都圏を水害から守ることを主目的としましたが、地元の反対もあって紆余曲折の末、計画から68年経った令和2（2020）年の完成となりました。完成直前の試験湛水の期間中（令和元（2019）年）に台風19号の来襲があり、わずか1日で満水となって首都圏の水害を緩和したことは記憶に新しいところです。ダムサイト周辺やダム工事に使われた原石の採取地は国有林です。

地元ではハッ場ダムとダム下流の吾妻峡と併せ、新たな観光スポットとしての活用に力を入れています。



<ハッ場ダム>



<吾妻峡>

(2) 品木ダム

前述した「中和事業」の中核的な施設です。昭和39（1964）年に開始された河川の中和事業は、強い酸性度（pH2）と湯量を誇る草津温泉を中心とした温泉地帯から流出する川の水に、アルカリ性の石灰水を混ぜて中和させます。その下流に建設された「品木ダム」に中和生成物を貯め、浚渫処理されています。

魚が住める清流「吾妻川」を維持するために欠かせない施設であり、国有林としても用地面等から貢献しています。

4 湖・湿原（美しい景観から）

当署管内の北側から反時計回りに南側の浅間山のあたりまでの県境付近は、「上信越高原国立公園」に指定されていて、美しい景観や貴重な自然が残されています。

国有林はこの区域に含まれていて、約58千haの国有林のうち約31千haが国立公園に指定されています。

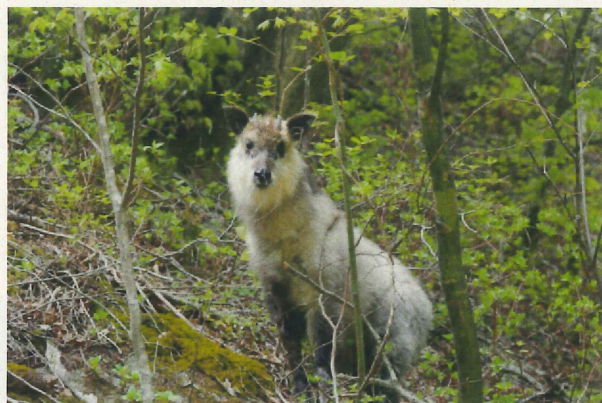
(1) 奥^{おくしま}四万湖（四万川ダム）

吾妻川の支流である四万川上流に平成11（1999）年に完成したダム湖です。四万温泉の直上流にあり、ダム湖周辺は公園として整備されていて車で一周できます（冬期は閉鎖）。

特筆すべきは湖水の色で、「コバルトブルー」や「四万ブルー」、最近では「ティファニーブルー」と賞されるなど、周囲の森林とのコントラストには心が癒やされます。湖色の理由について、はっきりとは解明されていませんが、「アロフェン」という粘土準鉱物によるという説が有力です。特に新緑の頃が美しくお薦めです。



<新緑の奥四万湖>



<カモシカ（運が良ければ・・・）>

(2) 野^{のぞり}反湖

かつて野反池と湿原があった地に、昭和31（1956）年、東京電力により日本初のロックフィルダムとして完成した人造湖です。標高約1500mの高地にあることもあり、シラネアオイやノゾリキスゲ（ゼンテイカの当地名）などの高山植物や、コメツガなどの亜高山性の森林に周囲を覆われ、優れた景観を有しています。こ

のため、全国に約620箇所ある国有林の自然休養林の中から「日本美しい森 お薦め国有林」に選定されています。

令和3年7月に、人気TVアニメーション『ゆるキャン△』シリーズ（制作委員会代表幹事：フリー株式会社）と林野庁がコラボレーションし、国有林の魅力やその中にあるキャンプ場に関する情報などのガイドブックが作成され、野反湖のキャンプ場も紹介されています*。

また、野反湖は信濃川支流の最上流部で、「流域」からすると長野県の区域であってもおかしくない場所です。しかし、古くから群馬県六合村（現中之条町）の住民が茅を採取・利用してきたことが認められて現在の行政区域になった、とされています。歴史的に見ても興味深い地といえます。

※ <https://www.rinya.maff.go.jp/j/press/kokusou/210715.html>



<ワケリキガと野反湖>



<六合中学校生徒によるシラネアオイの保護活動>

(3) 芳ヶ^{よし}平^{だいら}湿地群

中之条町と草津町にまたがって広がり、草津白根山の火山活動に大きく影響を受けて形成された湿地、河川、池沼群です。標高約1800mの高地にあって、モリアオガエルの最高標高の繁殖地となっており、ワタスゲの群落など季節に応じた景観が楽しめます。

前述したチャツボミゴケ公園との間には歩道が整備されていて、一帯は平成27（2015）年にラムサール条約湿地に登録されました。



<芳ヶ平湿地群（全景）>



<芳ヶ平湿地群（池沼）>

5 史跡（歴史的な視点から）

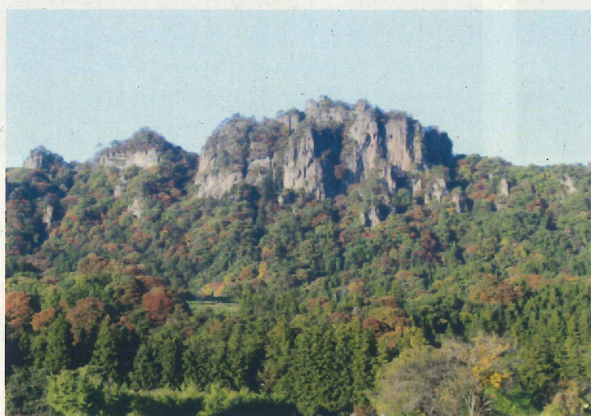
群馬県は古くから中山道や三国街道など大小様々な街道が交差する交通の要衝として栄え、吾妻郡も信州街道が横断するなど人の往来が多いところでした。

このため、史跡も数多くあり、歴史好きの方の視点でも楽しむことができます。

(1) いわびつ 岩櫃城

築城年は不明ですが、一説では鎌倉時代にこの地を治めた吾妻太郎助亮が築城したと言われています。吾妻川北岸の岩櫃山（803m、国有林）の中腹に位置し、戦国時代には上杉謙信に従う斉藤氏と武田信玄に従う真田氏が当地をめぐる争った際の重要拠点となり、真田幸村が幼少期を過ごしたとされています。城跡は令和元（2019）年に国指定史跡に登録されました。

地元の東吾妻町では、今年度からふるさと納税の「返礼品」に岩櫃城の御城印帳を加えたり、ここを含めた町の奇岩群をカード化（岩カード）したりするなど、PRに努めています。



<岩櫃山（全景）>



<岩櫃山頂からの眺望>

(2) くれさか 暮坂峠

「その名も寂し、暮坂峠」・歌人、わかやまぼくすい若山牧水が詠んだ詩です。牧水は大正11（1922）年に花敷温泉から四万温泉に向かう旅の途中に、この峠を訪れています。

中之条町と草津温泉を結ぶ、かつての草津街道の中間地点にある標高1086mのこの峠に、牧水を敬愛する人々が昭和32（1957）年に牧水像や歌碑を建立しました。現在の牧水像は3代目となっており、牧水が通った10月20日には毎年（コロナ以前）この地で「牧水祭り」が開催されています。



<牧水像と歌碑>

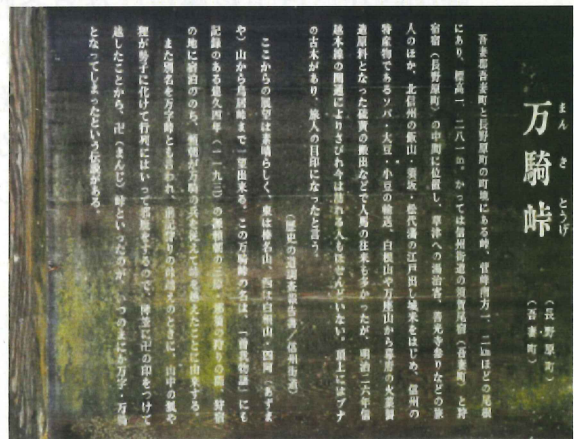
(3) ^{まんき}万騎峠

群馬県高崎市と長野県上田市を結ぶ、かつての信州街道の中程にある標高1284mの峠です。信州街道は善光寺や草津温泉方面への近道として旅人に利用され、1193年に源頼朝が巻き狩りをした際、1万騎の兵を従えてこの峠を越えたことが名前の由来とされています（諸説あり）。

現在は狭いながらも舗装道路が通り、峠の東側が国有林、西側が群馬県県有林となっています。境界付近にはブナの古木があり、眺めていると往時の情景が目に見えよさうな気がします。



<万騎峠、ブナの古木>



<万騎峠にある案内板>

(4) ^{あずまやふうけつ}東谷風穴（^{さんしゆ}蚕種貯蔵所跡、^{かいか}枋窪風穴）

中之条町枋窪にあり、かつて天然の冷風を利用して蚕種（蚕の卵）や林業用種子を貯蔵した施設の跡地です。

明治40（1907）年に蚕種貯蔵所として国有林内に開設され、昭和16（1941）年頃まで近隣町村の蚕種製造業者や養蚕農家からの委託を受けて運用されていました。戦後は、当時の中之条営林署が施設を買い上げて林業用種子の貯蔵に利用してきましたが、冷蔵庫の普及もあって昭和44（1969）年に取り壊されました。

平成22（2010）年に下仁田町の荒船風穴と併せて国史跡に登録され、現在、整備・活用に向けた基本計画（令和3年策定）に基づく調査等が進められています。



<東谷風穴（周辺の状況）>



<風穴内部の調査状況>

(5) その他

当署の歴史を最後に記載させていただきます。

当署は、明治22（1889）年の12月に吾妻郡役所内に開庁された「東京大林区署中之条派出所」に始まります。その後、複数回の名称及び管轄区域の変更、中之条営林署と草津営林署への分割、再統合などを経て、平成11（1999）年から現在の吾妻森林管理署として、国有林の管理経営や民有林行政との連携に努めています。署長としては小職で52代目となります。

おわりに

最後までご覧頂きありがとうございました。

吾妻郡にはここでご紹介しきれない魅力的な場所がたくさんあります。廣田前署長が2年前に町村単位に分けて紹介された「吾妻地域の山や森林の魅力・わくわく発見」も併せてご覧下さい。

新型コロナウイルスによる感染症が落ち着きましたら、是非とも群馬県吾妻郡(当署管内)へお越しいただき観光名所を巡るとともに、国有林についても様々な角度から楽しんでいただきますようお願いいたします。

